瀬田の丘

創刊 1973 年
編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

今日のみことば
待降節　第 2 主日　B 年（2023 年 12 月 10 日）

瀬田教会主任司祭　小西広志神父

第一朗読：イザヤ書　40 章 1 ― 5、9 ― 11 節
第二朗読：ペトロの手紙二　3 章 8 ― 14 節
福音朗読：マルコによる福音書　1 章 1 ― 8 節

待ち望み、声を聞き、悔い改める

三つの朗読から

第一朗読の背景には、バビロンを目指して侵攻してくるペルシャの王さまキュロスがいます。第二イザヤはキュロスの台頭に、いち早く「時のしるしを」を読みとりました。何かが始まっているのを読みとったのです。今、歴史が動き出している、それこそ神の新しい創造と救いなのだという「呼びかける声」を第二イザヤは聞いたのです。

第二朗読から読みとりたいのは、主のもとでの時は人間の計る時間とは違うという事実です（8 章参照）。だからこそ、わたしたちは待ち続けるのです。

福音朗読には「主の道を整える」（3 節参照）とあります。待ちわびるわたしたちにとってできることはただ一つ。「整える」ことです。

ひとこと

各朗読の三つのみことばに注意しましょう。

第一朗読：「慰めよ」（1 節）

元々の意味は「深く息をつく」というものです。神さまがなさる慰めというのは、神さまご自身がこれまでの人間との関わりをふり返り、後悔することから始まります。そして、「深く息を」ついて新たな救いの道を人間に示してくださるのです。

第二朗読：「待ち望んでいるのです」（13 節）

人の時間（クロノス）の中で生きるわたしたちにとって、待ち望むことはとても忍耐が求められます。しかし、神さまもまた、ご自分の時間（カイロス）の中ですべての人が救われるようにと忍耐なさりながら、キリストの再臨の時を見定めようとなさっているのです。神さまもまた待ち望んでおられるので

はないでしょうか。

福音朗読：「悔い改めの洗礼」（4 節）

神さまの方へと向きを変えていくのが「悔い改め」です。何か善いこと、正しいことをするのが「悔い改め」ではありません。しかし、わたしたちが決定的にく「悔い改め」るためには、神のわざが必要です。わたしたちの人生を決定的に変えてくださる神のわざです。イエスさまの到来とは神のわざであり、わたしたちの人生を変える大きなきっかけとなります。

さらにひとこと

荒れ野で叫ぶ者の声がする。（マコ1章３節）

福音朗読にある一節です。荒れ野に響き渡る声とはどんなものだったのでしょうか。待降節の黙想の材料となります。

わたしたちの生活には音があふれています。車の音、街の音、風の音、犬の鳴き声、そして、人の声。たくさんの音に囲まれてわたしたちは生きています。音のない世界はありません。もし、そんな世界があったとしたらとても怖いかもしれません。宇宙の空間には音がありません。空気がないので音が響かないからです。何も響かない世界は、漆黒の暗闇に通じます。もはや「わたし」というものがない世界です。なぜなら、人は音を聞いて自分の位置を知るからです。ピーポーピーポーと鳴らすサイレンの音の変わり具合を聞いて、救急車と自分の位置関係を知ります。「あっ、近づいているな」、「もう、行っちゃった」といったように。

荒れ野にも音はありません。もしあるとしたら風の音だけです。しかし、風の音をかき消すほどに太陽の強い光が人間を照らします。そんな荒れ野の彼方から「声」がするのです。確かに人の「声」です。孤独を感じて彷徨う人間にとって、それは「恵みの声」です。その「声」の方へと向かわないはずはないでしょう。「わたし」というものをはっきりさせるために。

洗礼者ヨハネは「声」です。わたしたちを神さまのもとへと招き入れる「声」です。しかし、「声」が何を言っているのかはまだ分かりません。荒れ野である人生をさまよい歩いて、「声」を聞いて、そちらの方へと向かいます。「声」の源には幼子イエスがおられるのです。

クリスマスの予定

12 月 24 日（日）待降節第 4 主日

ミサ時間：7 時（修道院のミサ）、8 時半、9 時半

主の降誕の夜半のミサ ミサ時間：17 時、19 時、21 時

12 月 25 日（月）主の降誕の日中のミサ

ミサ時間：7 時（修道院のミサ）、10 時